



山頂より北の涯を望む

洋上の独立峰・利尻山（1721m）。この山が生み出す雄大で多彩な景観は、利尻礼文サロベツ国立公園のイメージそのものです。利尻という地名はアイヌ語のリイ・シリ（高い・島）に由来しますが、利尻山の頂はまさにこの地の“いちばん高いところ”であり、ここから全方位を一望することができます。快晴だったこの日、荒々しい山頂から見えた北の涯では、空と海が繋がりそのような青の景色でした。

撮影地：利尻山山頂（利尻町・利尻富士町）

利尻島

360度の絶景に会いに行く

礼文島の最高峰・礼文岳（490m）。標高はそれほど高くありませんが、山頂一帯は低木林が広がり、高山帯の雰囲気を感じられます。礼文岳の魅力は、何と言っても山頂からの360度のパノラマ風景。南北に細長い礼文島全体の姿と海に浮かぶ利尻島、時にはサハリンの島影を見ることがもできます。礼文岳山頂まで歩いたこの日、なだらかな丘陵の向こうに、雲を纏った淡い色の利尻山が姿を見せてくれました。

撮影地：礼文岳山頂（礼文町）

礼文島



花と野鳥の楽園を鳥瞰する

サロベツ原野は約6千年の年月を経て形成された日本最大規模の高層湿原ですが、残念ながら、その全体像を地上から見ることはできません。この日はサロベツ川上空からの空撮を行いました。水色の空の下、緑の湿原に川や湖沼の深い青が刻まれた、写真に収まり切らない景色が広がっていました。空飛ぶ鳥たちの目にはこのような世界が映っているのでしょうか。

撮影地：サロベツ川上空（豊富町）

※サロベツ湿原センター及び幌延ビジターセンター木道でのドローンの飛行は禁止です。

サロベツ



北海道地方環境事務所では北海道の国立公園などで、活躍するアクティブレジャーの活動を紹介する「アクティブレジャー」日記も配信しています。左のQPコードからご覧ください。



「国立公園たより」とは、日本最北の国立公園利尻礼文サロベツ国立公園で働く環境省のスタッフが季節ごとのとっておきを皆様にお届けする広報誌です。

※バックナンバーは左のQRコードからご覧になれます。

発行：環境省稚内自然保護官事務所